

当別町の地域医療のあり方検討会議（第2回会議要録）

○ 日時	平成30年8月3日（金）午後7時00分～午後8時27分
○ 場所	当別町総合保健福祉センター「ゆとろ」多目的ホール
○ 出席委員	坂野委員（座長）、澤崎委員、朴委員、前田委員、小野寺委員（代理）、 工藤委員、矢野委員、加我委員、平野委員、小林委員（代理）、 浜元委員、泉亭委員、高取委員
○ 事務局	保健福祉課長、保健福祉課主幹、健康推進係長他
○ 関係部署	介護課長、介護支援係長、子ども未来課長

【開会】

（事務局）

只今より第2回当別町の地域医療のあり方検討会議を開催します。議事進行につきましては、坂野座長にお願いします。

（座長）

先般はご意見をお送りいただきまして、どうもありがとうございました。沢山のご意見をいただき、締切が終わってからも追加のご意見を頂戴しております。

この後、資料の説明をいたしますが、資料をどのように取りまとめるかについては、私も参加し何度か事務局と会議を持たせていただいて作成しています。

それから前回、町民の意見が知りたいという質問もございましたので、資料としてお手元にお送りさせていただいた次第です。それでは資料について、事務局から説明をお願いします。

[事務局より資料の説明]

（座長）

資料に関するご質問がございましたら伺います。

（委員）

別添資料1は、私が質問した項目ですけれども、ここに記載のある町村は、一般会計からの繰入金を受けて、公立病院が運営されていると思います。当別町として、繰入金がどういう具合になっているのかを教えてくださいたいと思います。

（座長）

この別添資料1の繰入金は、病院運営経費の総額の中に、町がこれだけ補填してるとの理解でいいですね。そして、当別は、まだ町立病院がないので、もし病院を町で運営するとしたら、こういう規模の金を町が負担しないといけないとの予測が立つという資料として見ていいですね。

（事務局）

そのようにご理解いただければと思います。

(委員)

町の負担については、理解しましたが、今施設が無いのであれば介護施設だとか、病院とは別な形で効率的なものがあれば良いのではないかという思いもあります。

(座長)

将来の課題として検討する事項にはなるでしょうね。他に資料についてのご質問等がなければ、今日は是非委員の皆様から、ご意見ご感想何でも結構ですので一言ずつお願いしたいと思います。

今日の資料のまとめ方としては、とりあえず価値判断は抜きにして分類だけしています。どの領域のことで結構です。ご自身のお仕事の領域のことで結構ですので一言ずつお願いしてもよろしいでしょうか。

(委員)

私が意見させていただいた領域は、人材に関するところ です。

医師もそうですけど看護師・介護士、すべてにおいて非常に人材確保が厳しい状況です。これは多分当別に限らず、札幌圏も今はそうなっています。施設を運営していくと、人の採用に関して何千万も経費をかけている状況であり、それを民間だけにやらせるところに私は疑問を感じています。

(委員)

堀江病院がやっていた療養型の病床と同じものを今後つくるのが非常に厳しい状況のように思いました。それが厳しいのであれば医療ではなく介護の分野でそれに代わるような事業の可能性を今後検討の一つとして挙げていただきたいと思っております。

(委員)

救急に関して交通の便がないというのがありましたが、施設では、年間何十件と救急で病院へ高齢者の方を搬送することがあります。

入院先や救急医療機関が札幌では遠いなどの声を聞くことがありますので、利用者やご家族のことも考えて、交通の便の確保について町はどのように考えているのかお聞きしたい。

(委員)

国は、今後医療は在宅でという話をされていますが、ただそれを受け入れてくれる先生がいないと在宅医療は難しいと思うのです。

昔ながらの訪問をしていただけるお医者さんのような形があればいいだろうと思います。

入院病床がある初期救急対応の病院があることが望ましい。或いは、在宅医療の支援診療所、有床の診療所があるといいと思っています。

終末医療をしていただく病院がないというのも本当に心細いです。安心して当別に住んでいくためには、そういうことも必要だと思います。今新たな病院を作るということは可能

な事じゃないということでしょう。将来的に、町は補てんなのか、補助をしていくことも必要と思います。

もう1つは、交通網の件で、高齢になって運転免許を返上するなど、色々な状況の中でそのような方に対して、どこかで線を引いて交通費の一部を町で見る必要があると思います。札幌のあるタクシー会社は免許返上の証明書というのを持っていくと、タクシーの料金を20%位安くしてくれます。

行政もある程度の負担をみて頂けると、通院するにも回数を減らさないで安心して通院できると思っています。是非やっていただければ住民の方々も我々自身も安心していけるとと思います。

(座長)

人材確保の問題、それから療養型の医療機関を介護の問題としてどう捉えていくか。交通機関の問題、初期の救急対応、医療機関をどうするかということ、在宅医療では、やっていただく医師の方々、医療関係者をどのように整備していくかというようなご意見をいただきました。

安心して住める当別という話がありましたけど、いずれも課題であると思います。

(委員)

改めて地域医療のことを考えた時に、町にある社会資源、医療や福祉資源の中でももう少し拡大をしたり、補完をしたりというようなことが必要だろうと強く感じております。

特に患者さんの流れの中で、肺炎などで入院が必要となった時に受けて頂くような、連携ができればと感じています。

それから退院した後、町に帰ってくる時に、町にはどういった機能の医療機関や介護施設が必要で、在宅医療や看取りにどういったことが必要とされているのかを含めて、考えなければならぬと感じているところです。

(委員)

訪問診療をする医療機関が少ないということと、臨時の往診になかなか応えていただけていないところがあるところが在宅を支える立場としては、すごく不安を思っているところです。

ガン末期は麻薬とか使うので、往診はそういう経験をされてきた先生が診ると思いますが、現在は札幌の医療機関から往診している先生が、診ていただいている現状があります。

(委員)

日頃感じているのは、やはり訪問診療してくれる先生が少なく往診に応じてくれる医療機関が無いということです。

今ガン末期の方には札幌の医療機関から来てくれる先生がいるのですが、一人ですので何件も掛け持ちでやると、先生の疲弊というところも心配される場所でもあります。

訪問していて利用者からよく聞く話では、受診する手立てがないので、介護保険のヘルパーを使っての通院手段が限られていて、新規の人を受けないし、限られた人でやっているた

め中々使いたくても使えないという現状を聞いたりしているので、そういうところも少し改善できないかなと思っております。

(座長)

委員からは、訪問看護、それから臨時の往診、或いは医療機関の複数の科の機関との連携をどうするか、或いは機能分担をどうするか、例えば救急で札幌に行ったとしてもそのあと戻ってからどう対応するか、複数の機関の連携をどうするか、医療サービスを受ける患者の流れに応じた体制を町の中で作ることができるか、診療機関だけではなくて薬局とか、その他の医療に関係する機関も含めてどう連携していくか、を共通した意見としていただいたと受け取りました。皆さんそれに関して何かご意見ございましたら是非お願いします。

なければ、引き続き5名の委員の皆さんに一言ずつお願いします。

(委員)

問題点が沢山あるということはよくわかったが、町はここに重み付けをしていただくと、我々も討論しやすいのではないかと思います。

例えば、医療に関して言えば急性期に重きをおくのか、療養型に重きをおくのか。今、当別で開業されている先生方にこれ以上負担を強いることは難しいと私は考えています。

町立病院の規模が難しいとしても、それに準ずる施設、或いは開業医を招へいするなど、そういう努力が必要だろうと。

私は当別町に住んでいませんが、ここに医師を呼ぶとしたら土地と建物を提供するから来てくれというぐらいの意思表示をしないと町民が望む24時間体制で診てくれる、やる気のある本当に優れた医師が来てくれることは難しいと思います。

そういった意味では、町の方々にはもう少し覚悟を示していただいて本気で医師を招へいし、しかも今当別町で既に開業されているこの先生方を守るために新たに先生が必要ではないかなと強く感じました。

(座長)

最初の方で仰られましたこの資料で急を要するものは何かというような整理を今日の会議の後半で皆さんにお諮りしようかなと思っておりましたので、後ほどまた議論させてください。

(委員)

私たち医療機関で働いていて本当に日々一生懸命やっているつもりです。

往診も月に20件くらいしかできていないし、看取りもできてませんが、色々と制約がある中でやっています。

当別の中の医療の一端を担えればと思ってやっています。今回のこの会議の中でも色々まとめられることも聞きながら、それに対しては出来るだけ応えていきたいとは思っています。

それと町が今まで医療に対する政策が無かったのかなということを率直に思っていて、そういう中で今回の救急当番のことにしても、ベットが無くなったことにしても、学校医の

関係で持ち分が増えたことにしても、きっとこれからもまた起きてくるのだろうなと思っています。

町としてどのように医療について政策的にいくらお金を出していくのかを今回の会議でも具体的にしていかななくてはならないのではないかと思います。

また、追加の資料ですが、こういう中身で例えば町で法人を誘致するとかを含めてその上でいくらかかるとか、検討していただけたらなと思いました。

(委員)

この資料見ると全ての問題が提起されていて、どこに問題があるのか、何をしなければいけないのか、一目瞭然という感じに思います。

この資料の中に、すべて住民の声とか必要なことは全部入っていると私は思いました。そして後は、町立病院をつくるしかないのではないかと感じました。

これだけの住民のニーズとか状況を町で分かっているのに何で町立病院の構想すら無いのかなって非常に不思議で、町立病院はお金もかかるし、医者を集めるのも手間がかかるが、お金も手間もかからないんだったら民間がもう既にやってるわけで、例えば医療大学が頑張ってくれたとしても、きっと赤字になると思うのです。お金も手間もかかって誰も手をつけないことをやるのがやっぱり行政の仕事でないかと私は感じます。

医療は、お金の問題ではないようにも思っていて、私としてはこの会議を機会に町立病院とまではいなくても町立のなんらかの医療設備をつくるという構想を検討する方向に町が向かってくれればありがたいと思います。例えば10年後でも20年後でも30年後でも町立病院をいつかは作るから、段階的にちょっとずつできることからやるのだからという町の方向が出ればいいというのが気持ちです。

(委員)

まず最初に資料見た時には、問題が多岐にわたってあまりにも広すぎてどこに焦点あわせたらいいかわからないと思いました。

訪問看護ステーションの意見で看取りをしてほしいというのはすごくよくわかりますが、それぞれの先生方は時間がとれないのだと思います。訪問だけでやるような先生がいればそれは出来るのかもしれませんが。普通に一般の診療をしながら訪問もして看取りもしてでは、体が足りなくなります。

私は、特養などで看取りもしています。夜中呼ばれて吹雪の日でも行って看取って死亡診断書を書いています。

私も年なので、あと何年できるか分かりません。年とともに先生方も一人一人いなくなってくる可能性も高いので、それを補充するような努力は、町でしなくてはならないと思います。

(委員)

医療的に自分のできる範囲のところはいくら頑張ったとしても少ししかできない。

自分の得意なこととか、自分はこういう具合にやりたいとか、こういうところでやりたいとか、こういうことをしたいってことで開業しました。当別町は、安心して幸せな医療生活

という面からみると、今までもそのような時期は無いですよ。当別の勤医協診療所に1年間ほど勤務していたこともあるのですが、そのころも、当別町に医療が必要だからなんとか医療施設をつくろうという町民の運動でできたのはご存知のとおりです。

勤医協もベットを持たない医療機関となって、北海道医療大学の金沢のところも、恐らく経営ができなくなったから閉めたのではないのでしょうか。どうやって現在の医療制度の中で、展開していったらいいのか考えた一つの判断の結果です。

多くのところは言われてるように、本当に困っている人たちに対してどうするかというところを考えなければならない。医療圏の考え方は前回江別保健所長がおっしゃられたように圏域でベットは増やさないとことです。当別町でベットは絶対できないと思っているのだから、そういう中で困っている人には、介護とか安心するケアを町の方で拡充し、先ほどの何十億円とか何億円の各市町村で繰入金として支出しているところを介護施設などに使うことで納得してくれるのではないかと思います。

(座長)

医療機関側からの委員の皆さんからのご意見でしたけど幾つか共通したキーポイントあるでしょうか。一つは変わりつつある医療制度の中で、町の中に既存で、ご尽力いただいた医療機関の皆さんを大切にしながら、同時に町で新しく病院といわなくても医療機関、町民の医療に役に立つようなシステムができるかどうか、或いはこれからの町の医療政策として人的・物的・経済的支援を町がどうやっていくか、それを医療機関だけじゃなくてそれこそ訪問看護や介護の施設や福祉の関連とどういうふうに関連して町が政策としてやられていくかというような辺りを町の本気度が試されている。

そのようなところが今共通したご意見ではないかなと思いまとめさせていただきました。今の件に関して何かご意見、如何でしょうか。

(委員)

ベットの件ですが、診療所として19床は持てるので、他のどっかの病院、内科と外科で土地を隣に買って38床という病院も知ってます。ですから科が違えば19プラス19で許可がなくても増やせることはできるのです。全く持てないわけではないです。

(座長)

それは、一つの医療法人が19持って、別の医療法人がまた19持って、それが例えば5つあれば全部で95床ということですか。

(委員)

科が全部違えばです。

(座長)

具体的なこれからの政策を考えると参考になりますね。他に如何でしょうか。今色々一言ずつ頂戴しましたけれども、それに関する総合のご意見でも何でも結構です。

なければ、先ほど委員からお話がありましたけども、要はこれだけある意見、我々としては、比較的短期のうちに町に取り組んでいただきたいような課題、或いは解決したほうが良

いだらうと思われる課題と、やはり長期の経過のもとで進めていかなければいけない、或いは長期的な視点で考えていかないと駄目だろうというものと、意見の価値判断をしたいと思います。

そういったところでは、この意見の整理表は価値付けをしていませんので、なんらかの価値判断、或いは重み付けが必要だと思います。あと暫く意見交換したいと思うのですが如何でしょうか。

(委員)

短期は長期にも含まれると思います。やはり長期展望、長期的なビジョンのようなしっかりした柱があって、そこを見据えて順次何をしなくてはいけないのかというのが思考の順番だと思うので、町で長期のビジョンを1つの言葉でも、何でもいいですから立てて欲しいと思います。そうすれば皆一つの方向にそれぞれの分野で努力していかれるのではないかなというような気がします。

(座長)

その場合の努力っていうのは、こういう方向に向かってくださいという努力課題を町がはっきりと示していくということですよ。

(委員)

例えば救急当番に関して、我々が4件で月1回程度は許容範囲ですと書いてあるのですが、正直いうと本当は月1回でも辛いのです。本当は町の方には月1回でも辛いのもっと減らしてくださいっていうお願いは、1年位前にもしています。

ただ長期的な展望があって何年後にはこうするというのであれば、3年間はこれで我慢してやってくれとか言われれば、では3年間頑張るかとか、そういうことも勿論絶対ではないのでできますが、長期的見通しがなく、ただ今年できたのだから来年もできますよね、再来年もできますよねと言われると、ちょっと待ってよと、こちら生身の人間なので、その内に悪いけど全面的には協力できないということになってしまうかもしれない。例えばですが。

(座長)

少なくとも、長期とまで言わなくとも中期的な展望はまず必要でしょうね。

(委員)

長期的というのは、町立病院のような町としての行政が中心となってやる医療施設を具体的に向かう気持ちがあるのかどうかということです。

本当に全く具体的に無い。だから民間に丸投げですよって言われても、民間は民間なんで、損してまではできないと思うので、特に我々は個人でやっていますので、我々個人が病気になれば、いくら頑張ろうと思っても無理なのです。だから町が抱えているような長期的な医療、持続可能な医療というのは民間に投げてるうちは絶対に不可能だと思います。公的などころがどっかを分担しないと無理だと思います。

(委員)

非常に残念だったなと思うことが一つありまして、別添資料の3の中で、“町立病院を作るつもりはまったくない”と書いてあるんです。私が提案したのは、有床診療所という先ほど19床だったらいいという話がありましたね。診療所だといいいのかなという部分ですね。

病院は持たないけれど診療所を持つことについて、町としてある程度ビジョン持ってやっていただきたいなっていうのはあります。個人病院の先生方も色々苦勞されてやっていて、高齢になってくれば今までよりも負担が大きく掛かるなと思う。

町として、基本的にこの範囲くらいはできるかなと思うし、ビジョンとして持っていたくと私たちも色々意見を言いやすいと思うのです。

今ここで町に返答してくれとかそういうことではありませんけども、そういう考えをまとめていただいて、長期・中期・短期にやってきたらいいんじゃないかと思います。

(座長)

今の2人の委員の意見をまとめると、まずはやっぱりベースとなる長期的なビジョンを町が政策としてしっかり持てと。その中で、いわゆる短期で解決される課題もあるだろうし、長期でかかる課題もあるかわからないけれども、ベースを町がしっかりと展望を持って、なおかつ具体的に政策として時期的なものを考えながら片付けていく必要があるのではないかというような感じで受け取ってよろしいでしょうか。

(委員)

この会議をしていますけれどもこれは政治の問題ですよ。政治家の皆さんはどう思っているんですかね。議長さんとか議員さんとか町長しかり。そういう政治家さんたちのビジョンとかご意見というのは全く聞こえてこないんだけど、どう思ってるか教えていただきたいですね。

(座長)

それは今回は、わずか3回の予定でまずは意見交換してみようというところでスタートしたわけですけど、町の方としてはこの検討会議を引き続き正式の会議とするような意向もゼロではないと最初私伺ったように思います。

その中で、町の政策を立案する議員に私たちの意見を出していく或いはこの検討会議の意見を積極的にそっちへもまわしていただく、それに対する意見をどっかで聞いてみたいような気もしますが、おそらくこれが正式の会議体として作るとしたらもっと積極的に我々も発言していく必要があるかなという気がします。

1つ事務局に質問していいですか。この別添資料3のゆとろとコミセンでやった住民説明会のところの町の回答っていうのはこれは町の担当者の回答なんですか、それとも町の正式の回答と理解していいですか。

(事務局)

この時点で、3月に行いました住民説明会での町としての回答ということになります。

(座長)

町の正式の回答と、理解していいですね。

(委員)

町立で病院は今の段階では考えていないということを伝えてます。町民がこの町に住んでよかったと思える体制を作らないといけないので、必要に応じてお金を投入していかないといけないと思っているということで、形なのか機能も含めて、町長としては医療に対するお金は当然必要だと考えているということはここでお伝えしたいと思っております。

(座長)

この検討会も含め、町民の世論も盛り上げていく必要があるでしょうね。

(委員)

将来的なビジョンを今いる私等で何かしてくださいという話なのかなと思いますが、具体的にどうしていくか決めなければならないし、資源的な部分も町がどこまでやっていただけののか。

正直24時間対応してる施設を運営していくのは非常に今厳しい状況であるというのは町としてもわかっていただきたい。

(委員)

同じポイントの指摘になります。この資料を読んだ中で、当別町の医療が充実していなければ当別に転居する人もいない、入院施設がないのだったら、歳にとって弱ったら転出するとも書いてありました。医療が充実していなければ誰も当別に住もうと思う新しい人は出てこないばかりか、歳とったら不安だと思ふ方がいる。何年前かに雪がひどかったときに当別雪ひどいから歳とったら住めないよと札幌のマンションに引っ越して行った人を何人も知っています。ただそのときはだ堀江病院ありましたから、ベット無くなったら今年の冬くらいから雪もひどいしベットもないし、先生俺札幌行くから添書書いてくれという患者さんも出てくるかもしれないなと思います。

(委員)

町は高齢者の医療だけじゃなくて、町長も町議会で、子どもに優しい町づくりをしようとおっしゃってますけども、でも子どもの医療で考えたら当別はとっても貧弱みたいなところですよ。ですから子育てに優しい、次の世代の人たちを町に呼び込もうとして考えるのだったら、次の世代の人たちの医療を町でまかなえるような、町のビジョンというのは必要かなと思います。医療の検討というのもどちらかというと高齢者に目が向きがちですけどもやっぱり若い世代のところに目を向けていかないと、人口展望で増えるというようなことは、とんでもないことだとなってしまう気がします。

(委員)

基本的には同じなんですけど、ビジョンとして人口を増やすのであれば、増やせるような政策を作らなきゃならない。増やすための政策はやっぱり他町村より優れていなければならない。医療でいうと、受診しやすいとか、色んなことがありますけど、お金ばかりでなくても具体的に他より優れているという発信がないと当別は雪を考えると人口を増やすのは難しい。住みやすさを裏付けできる予算を確保しておかないといけないと思うので、そうい

った政策を具体的に立てていただければありがたい。

(委員)

札幌から来て当別町で関わらせていただいたときに福祉、障がい、子育て、そういうところにすごく力いれてる町だなって感じました。医療に関しては、町として積極的に関わることが少ない町なのかなと外から入って感じたことであります。

堀江病院の後のことを介護のサービスで補填しようと思ったとき、介護には限界があつてどうしても医療の力は必要になってくる。それ以外のところは協力できるところは協力できるのかなと思っております。

(委員)

やはりまずは人材ですね。うちも3つの老人ホームがあるんですけども、本当にギリギリの中でやっております。医療、退院した後介護というところで受け持っていくためには、やはり人材というのが非常に大きな課題になっております。そこを含めて町としても確認いただければと思っております。

(座長)

確かに医師だけじゃなくて、医療制度に関わる多職種の方が積極的に当別にやってくれるような土壌を作る政策が必要なんじゃないかな。

(委員)

このように意見を聞きながら町がどう考えていくかとか、町に住んでもらえるように町がどう考えていくかということが必要ではないでしょうか。

(委員)

住み慣れた地域で最後まで暮らせるということを住民で知らない人がいます。そういうところを周知できるような仕組みも必要であると思っております。

(委員)

開業医の先生たちにこれ以上負担をかけないように、やはり町立の有床診療所が必要だと思います。それをプランの1つとしてあげていただいて、町の方針を出していただければと希望します。

(委員)

今日の会議で本当に町がしっかり何を指すかということを書いてもらわないと、現場で働いてる私たちがやれる範囲のことをやるだけでは、町の医療は成り立たないと思っ

(委員)

将来に向けての町立病院の構想をつくるとしたら今が非常に良いチャンスだと思います。今まで堀江病院があつたので、町立病院を作ったら堀江病院の経営が圧迫するという遠慮もあつて町は計画しなかつたのかなと思つたところもあるのですが、今聞いたら具体的に検討したことがないとのことを知りました。

いずれにしても病院がなくなって遠慮はいらないので、どんな病院でも作る気になれば

作れる今が最大のチャンスなので、よく考えていただければと思います。

(委員)

開業して20年になりますが、こちらに来た当初、テレビで見た岐阜の大都市の隣町に保育所と診療所が併設されているようなところがあって、人口が増えたと、要は子供を預けても病気になったら呼び出されるというようなことしないで、隣の診療所が病児保育してくれる。そういう診療所ができたので町は人口が増えた。当別でも真剣に検討してくれたら20年経った今当別の医療自体が変わったものがあったかもしれない。

今まで町が医療に関して民間に任せていたと思います。本当に真剣に町として何が出来るのか考えていただきたいと思います。

(委員)

医療制度が変わって、その中で町として取るべき手段を考えると色々難しいと思います。が、町として色々な政策をきちっと考えた上でやっていただきたい。

しかし、問題はここだけの問題ではなく全道・全国の町村の問題でもありますから、町村会とかそういうところで、生活が成り立つようになる意見をしっかり伝えていただかないと、答えが出てこないと思います。

(委員)

私自身は、当別に移り住んで17年になります。当別は今まで、既存の産業をどうやって更に強化していくかということに力を入れていたと思います。

その中で人に注目するのは少なかったと思います。それが子育てであり医療であり、時代の背景の変化とともに高齢者の介護であり福祉でありと、そういうものに関して、今まで政策としてはちょっと弱かった部分なのかと感ずるところはあります。

今日、長期のビジョンとか色々出ましたけれど、私が町にお願いしたいのは機動力というか迅速さです。これからじっくり20年計画立てますと言っていたら、もう潰れているのですから短期で集中して政策を立案していただく迅速さが必要ではという気はします。

(座長)

色々貴重なご意見いただきました。この検討会はあと1回予定していますが、どう取りまとめるかについてです。

今日の意見交換を受けて、それ以外に私はまだこういうことが言いたい、こういうことを主張したい、町に具体的にこういうことを要望したいというような意見。或いはまず今日のおおよそのコンセンサス、やはり長期のビジョンをはっきりと持てとか、我々に示してくれとか、町にやっていただきたいというところを、書式自由でございまして意見をお送りいただけませんか。8月20日月曜日を目処に、本日出てきた意見をまとめるとこれが優先的な課題ではないか、とかのご意見を事務局にお出しいただき、それをまた事務局の方でおまとめいただきたい。

最終的にこの検討会議の結果としてどんな産物をだすか、レポートをだすのか報告書にするのか或いは町への提言とするのか、その辺まだわかりませんが意見交換した中身

はこれからの政策に反映していただけるように何かの形で出していきたいと思いますので、それを事務局と整理をさせていただいて、その整理をまた委員の皆様にお送りさせていただいてそれを次回とりまとめてこの検討会議の結論として町に要望するというような形にしたいと考えました。

次回のスケジュールは、9月14日金曜日、同じく19時からということでご予定を組んでいただけたらと思います。

事務局から連絡ありますか。

(事務局)

ありません。

(座長)

それでは、本日の検討会議はこれにて散会したいと思います。ご協力ありがとうございました。